

令和7・8年度「新たな教職員の学び」協働開発推進事業 中間報告

独立行政法人教職員支援機構 特別研修員 福井 ひろ子

1 はじめに

高知県教育センターでは、令和5年度より独立行政法人教職員支援機構（以下「機構」という）の『新たな教職員の学び』協働開発推進事業を受託している。ここでは、その一環として、令和7年度に特別研修員として機構つくば本部で実施した研修および協働開発の取組内容について報告する。

2 教職員支援機構と本事業の目的

機構は、教職員への総合的支援を行う全国的な中核拠点として、校長、教員その他の学校教育関係職員に対する研修や教員の資質能力向上に関する調査研究等を実施している。

また、中央教育審議会『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方特別部会』で示された『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）（令和3年11月15日）において、教員免許更新制の発展的解消後の「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた方策とともに、教職員支援機構の果たすべき役割が明示された。

これを受けて、令和5年4月に、『探究型』の教職員研修の開発、「教育行政リーダー研修の開発」、「新たな学び」を牽引するオンライン研修の開発、「プラットフォーム等を通じた全国の教職員研修の支援」などを推進する、「次世代型教職員研修開発センター」を、令和6年4月に「教職員の学び協働開発部」を新たに設置し、「研修観の転換」を通じた「新たな教職員の学び」を実現する研修を推進している。

本事業は、機構と教育委員会や大学等が連携し、「令和の日本型学校教育」における新たな教職員研修の開発を行うとともに、新たな教職員研修の企画立案・運営を担う人材の育成を図ることを目的とするものである。

図1は、機構が「教職員の新たな学びの姿」の実現に向けた当面の取組を、「NITS戦略～新たな学びへ～」として令和4年7月にまとめたものである。

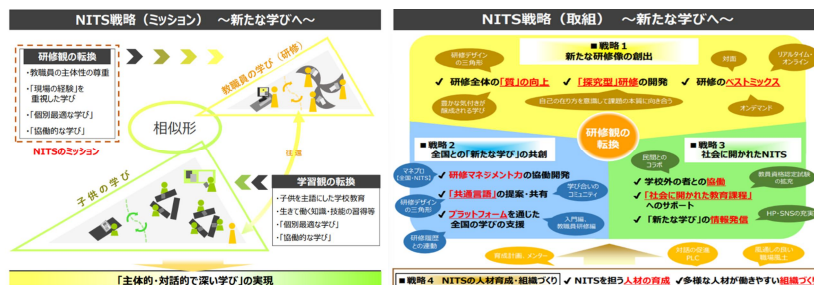


図1 NITS 戦略

3 取組の内容

特別研修員の役割は、(1)年間を通して、機構の「研修マネジメント力協働開発プログラム（以下「NITSマネプロ」という）に参画、(2)教職員研修の企画立案及び運営、全国の教職員研修に関する指導・助言・援助の企画立案及び実施、都道府県市教育センター等における出前研修講師等の実務の実地経験、(3)機構の調査研究プロジェクトに参画、(4)派遣元の教育委員会や教育センター等が、当該年度や翌年度以降に実施する新たな教職員研修の企画立案や運営に携わることである。

(1) NITSマネプロへの参画

機構では、「研修観の転換」に向けた「新たな教職員研修」の協働開発に向けて、全国の教育委員会から派遣された特別研修員（令和7年度は5名の参加）をはじめ、機構に在籍する教職員が対話・協働しながら探究を行う「NITS研修マネジメント力協働開発プログラム（NITSマネプロ）」を、月1～2回程度の頻度で行っている。1回2～3時間の対話を中心とした活動で、「探究型研修」の在り方を考えることや、研修マネジメント力（組織内で研修を企画する際に必要な力）を身につけるこ

と等を目的としている。令和7年度NITSマネプロの各回の内容は表1のとおりである。年間を通してNITSマネプロに参画する中で、この学びの場が単に研修観について意見を交換する場にとどまらず、参加者同士の同僚性を高め、その成果が機構の研修運営や改善へと組織的に生かされていることを理解することができた。また、自らの気づきを綴りながら実践を振り返る過程を通して、研修そのものに対する視点だけでなく、学校や子供の姿の捉え方についても新たな視点を獲得する貴重な機会となった。

表1 令和7年度NITSマネプロ

日 時	内 容 等
第1回 4月10日 13:30～16:30	ガイダンス（本プログラムの年間の大まかな流れ、ねらい等の説明）、自己紹介
第2回 4月24日 10:00～12:00	テーマ:今、求められている「新たな教職員の学び」とは
第3回 5月12日 10:00～12:00	テーマ:これまでに「教職員の学び」について考えたこと、今考えていること
第4回 5月23日 13:30～15:30	テーマ:探究とは
第5回～7回	テーマ:「探究」について探究する
第8回 6月30日 10:00～12:00	テーマ:グループファシリテーションについて
第9回 7月23日 13:30～15:30	グループで検討した内容の共有
第10回 8月28日 13:30～15:30	テーマ:あらためて考える「探究型研修とは」
第11回 9月16日 9:00～12:00	これまでの自身の実践と学びを振り返り、語り聴き合う
第12回 10月7日 10:00～12:00	テーマ①:あらためて「マネプロ」について問い直す テーマ②:今後の自分自身の「問い」を考える
第13回 11月7日 10:00～12:00	テーマ:「あらためて・・・コミュニティって?」
第14回 11月25日 13:30～15:30	テーマ①:コア研修（探究的な学びコース）について振り返る テーマ②:テーマ別探究について
第15回～17回	テーマ:「探究したいこと」について探究する
第18回 2月12日 10:00～12:00	テーマ:テーマ別探究の発表
第19回 2月24日 10:00～12:00	テーマ①:グループごとに前回の報告を振り返る テーマ②:「研修観の転換」について
第20回 3月12日 13:30～17:00 3月13日 9:00～17:00	NITS職員・関係者等の「これまでの自身の学び」について学びの場をデザインする

(2) 教職員研修の企画立案及び運営

特別研修員として令和7年度に主に担当した研修は、①「第3回校長研修(10月20日～10月24日)」、②「体力向上マネジメント指導者養成研修」、③「研修マネジメント力協働開発プログラム(中国・四国版)」である。研修の目的・内容・方法等の検討(前年度からの改善)や講師との連絡調整、運営マニュアルの作成、緊急時の対応、研修運営等に携わった。

① 「校長研修」(職階別中央研修)

校長研修の目的は、急激に変化する時代の中で、学校のあるべき姿の実現に向けて、学校や当該地域において、その実現に向けた取組を促進しようとする意識・力量を高め、地域の中核となる校長を育成することである。

校長研修は5日間の日程で実施し、参加者は事前課題として所属校の現状と課題を様式にまとめて提出することになっている。研修初日の午後は、所属校の現状と課題を明確化するために、令和3・4年答申を読み、学びに向かう問いを立てる時間を設定した。また研修期間中は毎日、自身の学びを言語化し、他者と対話し、気づきを綴るために、イントロダクションとリフレクションの時間を設定した(表2)。5日目の午後は、所属校における学校改善計画を策定する時間を設定した。研修終了後は、策定した学校改善計画に基づき、各学校や地域において具体的な改善の取組を長期的に実践することを通して、校長としての自らの教育実践の特徴や考えの枠組みに気づくことを、本研修の目標としている(図2)。

職階別研修には、校長研修のほか、副校長・教頭研修、中堅・次世代リーダー研修、事務職員研修がある。一年間の研修を終えると、職階別研修担当チームで研修の目的や目標(研修を通じて参加者にどのような気づきや変化を求めるのか)を見直し、次年度に向けた改善を図っている。機構には、AARサイクル(見直し、行動、振り返り)を意識し、多様な意見を受け止め、変化を厭わない組織文化が根付いている。これは、単なる「研修内容の更新」にとどまらず、研修そのも

のが目指すべき姿を絶えず問い続け、状況の変化に応じて再構築していくという、柔軟で持続的な改善の営みである。また、研修の効果を参加者個人の学びにとどめず、所属先の組織マネジメントへどのように接続するかということが重視されている。特に、学校組織の課題解決を担うリーダーとしての資質・能力を高めるためには、参加者が研修で得た気付きや変容を、所属先に戻ってからも継続的に省察し、同僚との対話や協働を通じて再構成していくことが不可欠である。

こうした学びの連続性を確保する観点から、次年度は全ての参加者にインターバルの機会を設定できるよう、研修日程の改善を進めているところである。

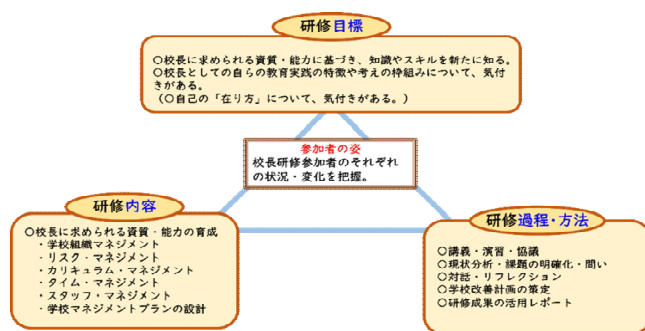


図2 研修デザインの三角形「校長研修」

表2 第3回校長研修 日程表

10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日
月	火	水	木	金
8:45～9:15 受付	8:45～9:10 イントロダクション 休憩	8:45～9:10 イントロダクション 休憩	8:45～9:10 イントロダクション 休憩	8:45～9:10 イントロダクション 休憩
9:15～9:30 開講にあたって ※	9:15～12:00 (休憩: 15分を含む) 講義・演習・協議 ※ 学校組織マネジメント	9:15～12:00 (休憩: 15分を含む) 講義・演習・協議 カリキュラム・マネジメント	9:15～12:00 (休憩: 15分を含む) 講義・演習・協議 スタッフ・マネジメント	9:15～12:00 (休憩: 15分を含む) 演習・協議 学校マネジメントプランの設計
9:30～10:45 講義 令和の日本型学校教育の 実現に向けて 教職員支援機構 理事長 荒瀬克己 ※	国士舘大学 教授 北神正行	千葉大学 名誉教授 天笠茂	早稲田大学 教授 河村茂雄	和歌山信愛大学 教授 岸田正幸
休憩				
11:00～12:00 研修ガイダンス ※				
12:00～13:00 昼休憩	12:00～13:00 昼休憩	12:00～13:00 昼休憩	12:00～13:00 昼休憩	12:00～13:00 昼休憩
13:00～15:45 (休憩: 15分を含む) 演習・協議 ※ 令和の日本型学校教育の 実現に向けて	13:00～15:45 (休憩: 15分を含む) 講義・演習・協議 ※ リスク・マネジメント 淑徳大学 教授 坂田仰	13:00～15:45 (休憩: 15分を含む) 講義・演習・協議 タイム・マネジメント 愛媛大学大学院 教授 露口健司	13:00～15:45 (休憩: 15分を含む) 講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計 和歌山信愛大学 教授 岸田正幸	13:00～14:30 演習・協議 学校改善計画の策定
休憩	休憩	休憩	休憩	14:45～15:00 実践に向けて
16:00～17:00 リフレクション	16:00～17:00 リフレクション	16:00～17:00 リフレクション	16:00～17:00 リフレクション	

※第3回事務職員研修との合同開催

② 体力向上マネジメント指導者養成研修

機構における指導者養成研修は、学校経営の観点から教職員の意識・意欲を高め、学校の組織基盤を強化することや研修のマネジメントを推進する指導者を養成することを目指している。このうち、体力向上マネジメント指導者養成研修の目的は、次の通りである。

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」を支える重要な要素です。子供たちが、現在及び将来の体力の向上を図るために、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにすることが大切です。

本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした、各学校や当該地域の実態等に即した子供たちの体力向上を図るための手

法等を修得します。また、マネジメントに必要な理論と同校種・異校種での実践を参照しながら、自校の取組をより多面的、系統的に見つめ直す視点を醸成します。その上で、1) 子供たちの体力に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校や当該地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図ります。

令和7年11月26日から11月28日の3日間にわたり、リアルタイム・オンライン研修として実施した(表3)。研修参加者は112名であった。

本年度より、講義の一部をオンデマンド化して事前課題として設定し、機構担当による対話的・省察的な学習の時間を拡充し、参加者一人一人の現場課題に即した深い学びを支える体制が強化された。

表3 体力向上マネジメント指導者養成研修日程表

事前課題(動画視聴)		体力向上とカリキュラム・マネジメント		日本体育大学 石田 有記						
8:45	9:15	10:10	10:20	11:40	12:40	14:10	14:25	16:05	16:15	16:45
1日目	受付	共有実践の振り返り	自己紹介	研修ガイド	第1講(演習・協議 80分)	第2講(講義・協議 90分)	第3講(講義・協議100分)	リフレクション		
		研修の振り返り	研修の振り返り	研修の振り返り	学びに向かうための資料読解・対話等	体力向上に関する現状と課題	学校全体で取り組む体力向上マネジメント			
					教職員支援機構	スポーツ庁政策課 教科調査官 塩見 英樹	桐蔭横浜大学 教授 佐藤 重			
2日目	受付	イントロダクション	第4講(事例発表【各30分程度】・協議・講義・演習)			リフレクション				
			体力向上マネジメントの実践例、校種別のマネジメントの在り方	校種別のマネジメントの在り方						
			遊び 事例発表(幼)・協議 休憩 講義 中京大学 教授 中野 貴博	遊び 事例発表(小)・協議 休憩 講義 熊本大学 准教授 末永 祐介	運動 事例発表(中)・事例発表(高)・協議 休憩 講義 東京学芸大学 教授 鈴木 聡	運動 同校種によるグループ演習	生活			
3日目	受付	発表準備	第5講(演習・協議 135分) 休憩を含む			第6講(演習・協議 195分) 休憩を含む	実践に向けて			
			体力向上マネジメントの在り方	研修成果の活用						
			異校種を交えた発表・協議	教職員支援機構						
			中京大学 教授 中野 貴博 熊本大学 准教授 末永 祐介 東京学芸大学 教授 鈴木 聡	講評						

3日間の研修をデザインするにあたり、『研修観の転換』に向けたNITSからの提案」を参考にしながら、学習する参加者の視点に立ち、「研修を通じて、参加者にどのような気づきや変化があるか」(研修目標)を整理し、そのような気づきや変化が起きるために「何を学ぶか」(研修内容)を検討し、その内容を「どのように学ぶか」(研修過程・方法)という参加者の具体的な学びの姿を考え、研修デザインの三角形に整理した(図3)。また、研修をデザインするうえで、①対話の時間・内省の時間の十分な確保、②対話や内省の深まりをもたらす問いかけの工夫、③教材(学習材)の工夫を検討した。講師による専門的・実践的な講義は1日目午後から2日目午前までとし、参加者一人一人が所属先のカリキュラム・マネジメントについて、個人作業とグループでの検討をふまえて考察する時間を確保した。

研修のアンケートから、学び方に関する「インプット/対話/リフレクション」の評価は総じて高いが、必ずしも「自己変容」や「研修推進者としての在り方」に結びついていない可能性が示唆された。アンケートの自由記述は短文になりやすく、文章としてまとめようとする過程で大事な気づきが省かれてしまう可能性が高い。省かれた内容の中にこそ、参加者自身の変容や気づきが含まれていると考えられ、それこそが参加者の質的変化を捉えるうえで重要な情報ではないかと考察した。そのため、参加者が自身の変容をより具体的に捉え、言語化できるような仕組みづくりが求められる。また、研修内容の理解を問うのではなく、「変容の兆し」を拾い上げる視点を持ったリフレクションの設計や、自由記述を深めるための問いの工夫が必要である。

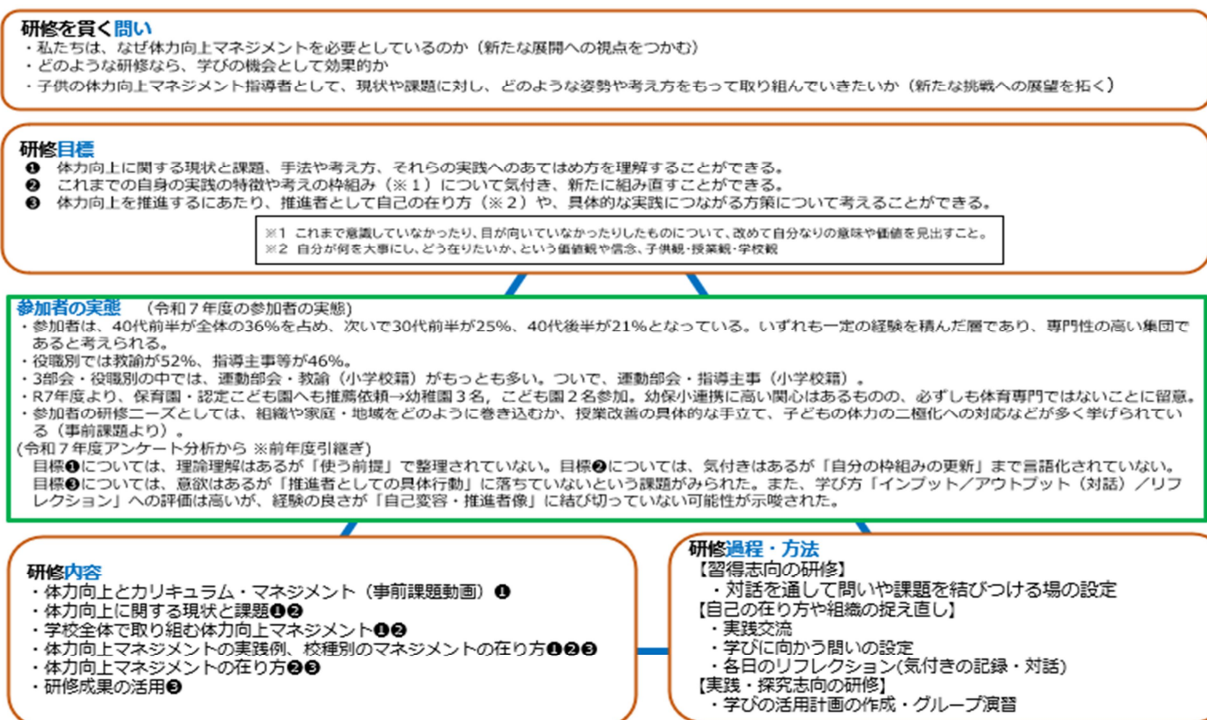


図3 研修デザインの三角形「体力向上マネジメント指導者養成研修」

③ 研修マネジメント力協働開発プログラム（中国・四国版）

本研修は、令和6年12月に「教職員の学び」に関する「学び合いのコミュニティ」の醸成を後押しすることを任務とするNITSフェローを委嘱し、「各学校や地域とともに教職員研修の充実を図る研修」として、令和7年度から新たに実施している。研修マネジメント力協働開発プログラム（地域版）として全国を7地域（北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国・四国、九州）に分け、「学び合いのコミュニティ」の醸成や、それを通じた教職員研修の持続的な深まりに資するよう、各地域の研修担当者が、「教職員の学び」の在り方を協働的に問い、考え合う機会を提供するために年3回程度開催した。中国・四国地域の運営は、NITSフェロー2人とNITS職員2人で構成し、令和7年度は、高知県、広島県、鳥取県を会場に、対面で開催した。この研修の目的は、下記の通りである。

中央教育審議会答申（令和4年12月29日）は、子供たちの学び（授業観・学習観）の転換のためには、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要があると提言しています。

「研修観の転換」は、NITSの職員を含め、全国の研修担当者の学びについての「観」が、広がったり変わったりする営みであり、研修担当者が、これまでと異なる研修の在り方に取り組み、その経験から得られた「気付き」を共有し、学び合い、支え合う中で、徐々に展開していくものだと考えています。そのような発想のもと、NITSにおいては、この「研修観の転換」に向けた「学び合いのコミュニティ」が、教職員研修を実施している各地の組織（教育センター、教職大学院、学校等）の中で形成され、つながっていくことで、共創分散型の「学び合いのコミュニティ」が全国に形作られていくことを目指しています。

研修デザインの検討は、NITSフェローとオンライン会議システムを用いて協議を重ねながら行った。プログラムの原案はNITSフェローから提案されるが、「それぞれが有するアイデアや発想は等しく大切である」という考えのもと、地域担当のNITS職員も対等な立場で協議に加わった。各回の内容は、地域や参加者の状況に応じてデザインし、回を重ねながら改善していった（表4）。

第1回（高知県）と第2回（広島県）は、各教育センターが実施する探究型研修を視察し、研修の実施形態だけでなく、新たな研修を立ち上げ、実施に至るまでの試行錯誤のプロセスや研修

担当者が抱えた葛藤も共有した。他県の実践に触れることは、参加者にとって大きな刺激となり、自地域の研修をどのように改善し、新たな構想を生み出していくかを考える契機となった。第3回（鳥取県）は、参加者と運営側がそれぞれ実践を持ち寄り、互いの経験を重ね合わせながら教職員の学びの在り方について考えた。

また、プログラム参加後の近況報告や悩みを相談する学び合いの場とした「また集まってみたよ！の会」をオンラインで開催した。これ以外でも参加者同士で自主的に連絡を取り合うなど、実践の共有が広がっている。

表4 令和7年度研修マネジメント力協働開発プログラム（中国・四国版）

	主な内容	会場	参加者
5月21日	第1回研修マネジメント力協働開発プログラム（中国・四国版）ガイダンス ・「新たな教師の学び」協働開発推進事業～研究開発担当の視点より～ ・発展期教諭等研修について～研修運営担当の視点より～	オンライン	24人
5月30日	第1回研修マネジメント力協働開発プログラム（中国・四国版） 午前 ・発展期教諭等研修視察 「研修参加者はどのように学ぶのか」 午後 ・「よい研修（教師の学び）とは」 「自分の地域で研修を行うとすると」	高知県教育センター	21人
7月17日	第1回また集まってみたよ！の会	オンライン	14人
10月3日	第2回研修マネジメント力協働開発プログラム（中国・四国版） 午前 ・となりの人の「人となり」（自己紹介） ①私が先生になるまでのエピソード ②先生になってから今に至るまでのエピソード 私たちは、どんな場面で学んできたか（視覚化） 午後 ・広島県教育センター「サポート力up研修」の視察 ①私たちは、どのように学んでいるのでしょうか ②私たちの学び（研修）をより良くするために、私がやっていきたいことは	広島県立教育センター	28人
11月14日 11月17日	第2回また集まってみたよ！の会	オンライン	17人
1月23日	第3回また集まってみたよ！の会	オンライン	9人
2月27日	第3回研修マネジメント力協働開発プログラム（中国・四国版） 午前 ・簡単自己紹介 ・となりの人の「人となり」（自己紹介） ①私が先生（他の仕事）を志したきっかけや経緯、大切にしていた思い出等 ②先生（他の仕事）についてから現在に至るまでの出会いや成長のエピソード ・私たちは、どんな場面で学んできたか（視覚化） 午後 ・ケーススタディ「あなたのアプローチはどのタイプ」 ・NITSメンバーの拡張（影響を受けた言葉や書籍） ・与えられた役割と学び（NITS審議役・地域担当者） ・自分が行う研修の場をよりよくするために、どんなことを心掛けたいですか ・振り返り	米子コンベンションセンター	63人

4 自己の力量形成

探究型研修に先進的に取り組む他県の教育センターを視察するとともに、高等学校における総合的な探究の時間の取組や成果発表会に参加した（表5）。また、年間を通して、茨城県立竹園高等学校の生物基礎の授業を参観し、ICT機器の効果的な活用について学んだ。視察した探究型研修は、当機構の特別研修員がつくば本部での勤務を経て、地元の教育センターで新規に立ち上げたものが多い。この1年の視察では、2年目特別研修員の役割や実践内容の具体について情報共有し、研修が地域に根づくまでのプロセスを理解する貴重な機会となった。また、高等学校における総合的な探究の時間の成果発表会では、生徒が自らの関心に基づいて自由にテーマを設定し、探究を深めている姿に大きな刺激を受けた。生徒の学びの可能性を狭めることなく、学校としてどのように学びの場を整えていくべきかについてあらためて考えた。探究では成果を求めがちであるという声も聞かれるが、生徒一人一人が没頭できる学びを実現し、プロセスを丁寧に評価していく姿勢こそが、探究の本質を支えるものであると感じた。

引き続き、他県の先進事例や生徒の実践から学びを深めつつ、今後の研修デザインの改善や研修観の転換に向けた取組を着実に推進していきたい。

表5 令和7年度先進地視察等

5月7日	総合的な探究の時間 授業参観・意見交換（茨城県立竹園高等学校）
6月5・7日	NEW EDUCATION EXPO2025参加
6月16日	令和7年度各教科等担当指導主事連絡・研究協議会（高・理科部会）参加
6月18日	生物基礎 授業参観・意見交換（茨城県立竹園高等学校）
6月26日	授業参観・意見交換（つくば市立桜中学校）
7月6日	実践研究 福井ラウンドテーブル2025サマーセッション参加
7月10・11日	生物基礎 授業参観・意見交換（茨城県立竹園高等学校）
7月31日	子どもの学びづくり探究研修視察（滋賀県総合教育センター）
8月22日	発展期教諭等研修視察（高知県教育センター）
9月14・15日	未来の先生フォーラム2025参加
9月18・29日	生物基礎 授業参観・意見交換（茨城県立竹園高等学校）
10月28日	さいたま市教師塾「夢」講座 第11回デザイン思考体験研修参加（さいたま市立教育研究所）
10月31日	行政リーダー・ダイアログ（岡山大学）
12月13日	第2回研修マネジメント力協働開発プログラム（東北版）（秋田県総合教育センター）
12月14日	令和7年度日本教職大学院協会研究大会参加（秋田大学）
12月17日	京都市立京都工学院高等学校視察
12月25日	埼玉県探究活動生徒発表会（日本薬科大学さいたまキャンパス）
1月7日	つくば市金夜サイエンスカフェ ファシリテーター参加
1月22・27日	生物基礎 授業参観・意見交換（茨城県立竹園高等学校）
1月28日	令和7年度 新たな教師の学びを共創する調査研究（さいたま総合教育センター）
1月30日	日本科学未来館視察
1月31日	探究学習合同発表会参加（東京都立大学高大連携室）
2月2・5日	生物基礎 授業参観・意見交換（茨城県立竹園高等学校）
2月13日	発展期教諭等研修視察（高知県教育センター）
2月17日	所員研修参加（香川県教育センター）
2月21・22日	実践研究 福井ラウンドテーブル2026スプリングセッション参加
3月5日	第2回研修マネジメント力協働開発プログラム（九州版）（崇城大学）

5 特別研修員1年目を終えて

12月頃まで、どうしても機構としての正解を探そうとする自分がいた。しかし今は、むしろ「正解はない」と捉える方が学びを豊かにするのではないかと考えている。同じNITSマネプロを経験していても、特別研修員5人の気付きは多様であり、マネプロ（地域版）でも各ブロックに応じたアプローチは全く異なっていた。だからこそ、自分たちが問い始めたことを自分たちで考え、問い直してよい。そのプロセスこそが主体的な学びであり、そこに他者と協働した試行錯誤が加われば対話的な学びとなり、その重なりが深い学びへとつながっていく。この一年を通して、私は、ようやく「主体的・対話的で深い学び」を実感をもって体験することができたように思う。

高知県教育センターでは、教職員の専門性向上に向けて研修の質向上を進めている。令和8年度は発展期教諭等研修を含めた8つの研修を探究型研修として運営する計画である。私は2年目特別研修員として、機構で試行錯誤を重ねながら学んできた研修デザインの考え方を生かし、主体的・対話的で深い学びを中心とした研修の充実に取り組みたい。

機構の荒瀬理事長が校長研修初日の講義で示された「学校は何のためにあるのか」、「どうあればもっとよいのか」、「それは誰にとってか」、「あなたはどうか考えるか」という問いかけについて、私は参加者や同僚と真摯に向き合ってきた。今度は、高知県教育センターの職員や学校の先生方とともに、この問いを考え、「教育を通して最終的に何を実現したいのか」を探究していきたい。そして、機構での一年を通して出会った安心して自分の考えを出せる対話の場を、今度は私自身がデザインしていきたい。

【参考資料】

独立行政法人教職員支援機構（2022）：NITS 戦略～新たな学びへ～

独立行政法人教職員支援機構（2024）：『研修観の転換』に向けたNITSからの提案（第一次）～豊かな気付きの醸成～